

## 令和5年度 学校評価アンケート結果の考察 ～成果・課題・改善策～

### 【成果】

#### 成果① ▶ 「えがお宣言」を大切にしたい思いやりのある言動

- ・児童の「えがお宣言を守る」の肯定的評価（あてはまる・ややあてはまるの合計）が98%、「思いやりのある言動」の肯定的評価が95%、保護者の「思いやりのある言動」の肯定的評価が91%で、互いを思いやる言葉を大切にしたい関係を築いていることが大きな成果と考えられる。学級で「えがお宣言」をもとに仲間とのかかわりや言葉について考える機会を充実させてきた。
- ・児童の「他の学年の子ともなかよく」の肯定的評価が96%で、縦割り活動や「ぽかぽかの空」の取組の中でも思いやりが育まれていると考えられる。

#### 成果② ▶ 自分たちの生活をよりよくする活動

- ・児童の「自分たちで生活をよりよく」の肯定的評価が96%、保護者の「自分たちで生活をよりよく」の肯定的評価が88%で、係活動、学級・児童会の取組で生活をよりよくしたり楽しくしたりすることに積極的に取り組んだことが大きな成果と考えられる。

#### 成果③ ▶ 地域の方と共につくる「あいさつ」

- ・児童の「進んであいさつ」の肯定的評価が96%、保護者の「進んであいさつ」の肯定的評価が79%である。平均値では、昨年度と比較して児童（0.3↑）・保護者（0.1↑）ともに上がっている。地域の方に支えていただきながら行った「あいさつ名人バッジ」の取組や児童会による「ハイタッチあいさつ」、そして日頃の保護者、地域の方による声かけの成果と考えられる。

#### 成果④ ▶ 夢や目標をもち、やりぬく

- ・児童の「夢や目標をもつ」の肯定的評価が90%、「決めたことをやりぬこうとしている」の肯定的評価が95%で、目標を持つこととやりぬく姿勢が成果と考えられる。「～たい」という願いを大切にしたい指導を学級で充実させてきた。
- ・全国学力テストでも同様の質問がある。全国平均が80%程度であるのに対して、本校は10ポイント高い。目標をもつことの大切さを実感する指導や、地域の人など憧れる人とのふれ合いによる成果だと考えられる。

#### 成果⑤ ▶ 「わかった」「できた」を大切にしたい授業

- ・児童の「授業は、『わかった』『できた』があり楽しい」の肯定的評価が93%だった。単元や教材の工夫、ICTの活用等によって、子どもがめあてをもって取り組んだことで「わかった」「できた」につながる授業となったと考えられる。

#### 成果⑥ ▶ 自分から学習に取り組む

- ・児童の「自分から学習に取り組む」の肯定的評価が92%だった。平均値では、昨年度と比較して評価（0.3↑）が上がった。単元や教材の工夫やマイプラン学習、自己選択の場の設定等により自ら学ぶ姿が伸びてきたと考えられる。意欲や態度は、最も変容させることが難しく高度の能力であることから、継続して育成する手立てを構築することが重要である。

## 【課題】

### 課題① ▶ 仲間のよいところを見つける、自分のよいところを見つけてもらえる

- ・児童の「よいところを見つける、見つけられる」の肯定的評価が89%だった。「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が他の設問に比べて少ない。「ぽかぽかの空」や学級のよいところ見つけは行っているが、全員が実感できていないことが課題である。
- ・保護者の「先生や仲間によいところを認められる」の肯定的評価が91%で、保護者の中では高評価であったが、否定的評価に対する対策が必要である。

### 課題② ▶ 自分たちで授業を進める

- ・児童の「自分たちで授業を進める」の肯定的評価が88%だった。自分たちでできることを子どもたちに任せ、授業を進める参画者としての意識を育てる指導が十分になされていないことが考えられる。

### 課題③ ▶ 自分たちでつくる学級生活・学校生活

- ・児童の「自分たちで生活をよりよく」の肯定的評価が96%で、係活動、学級・児童会の取組で生活をよりよくしたり楽しくしたりすることに成果があった。決まった活動には責任を持って意欲的に取り組めるが、さらに創造的によりよい生活を創り出す指導が十分でないと考えられる。

### 課題④ ▶ タブレット・スマホ・ゲーム機などの使い方

- ・児童の「タブレット・スマホ・ゲーム機の時間や約束」の肯定的評価が87%で、保護者の「タブレット・スマホ・ゲーム機の時間や約束」の肯定的評価が64%で、両方とも評価が低い。保護者と学校が連携してデジタルシチズンシップ教育を充実させていくことが必要である。

## 【改善策】 ※1月から改善策に取り組み、来年度へつなげる。

### 改善策① ▶ 「全員のよさみつけ」の取組を充実する

- ・全員が自分のよいところを見つけられ認められる取組を充実する。学級ごとに工夫されているが、ペアや班を使うなどしてどの子どもよさが見つけられるように意図的な取組とする。また、リフレーミングによって、ネガティブな点をポジティブに捉えることを教えていくことも重要である。
- ・「ぽかぽかの空」の中で、ぽかぽかメッセージを意図的に書くように教師が働きかける。

### 改善策② ▶ 自分たちで授業を進める指導を充実する

- ・「自分たちで進める授業」の取組を実践する。授業の一部から、子どもができることは任せてみる。任せることで、「授業は自分たちでつくるもの」という意識を持てるようにする。学ぶ主体者として、どのように進めればよいか考えられるようにする。

### 改善策③ ▶ 自分たちでつくる学級生活・学校生活

- ・子どもが願いを語る場を意図的につくる。子どもの願いに基づいて、取組や集会活動をつくる。

### 改善策④ ▶ タブレット・スマホ・ゲーム機などの使い方

- ・学校のタブレットを学習に使う道具として授業で十分に活用する。
- ・学校でのタブレットの使い方やアプリなど、実態把握をもとに学校の指導方針を明確にする。